

教育資料室だより

No.19 令和5年(2023).9.1

発行 桐生市立教育資料室(西小学校内)

桐生市小曾根町1-9 電話・FAX 0277(43)3171

歩いて 見つけて 味わって

ふるさと探訪 (1)

桐生市内文化施設とのコラボ企画

教育資料室は、教育に関する資料だけでなく、昔の写真や新聞のスクラップ等、郷土に関する資料(史料)も保管しています。桐生市内には、様々な文化施設がありますが、そのような施設が展示を企画するとき、これらの資料室所蔵資料を利用することが多々あります。

施設の企画展は期間が限られ、展示物もその場所に行かなければ見られません。それが当たり前であり、よい点でもありますが、現物資料は無理でも、あの写真がもう一度見たい。あの解説はどんなだったっけ…などと思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで『教育資料室だより』では、新しい試みとして、市内の文化施設が行った企画展の内容を、許しを得て、当室が保管している他の資料も交えながら、少しずつ紹介することとしました。今回は、その第一弾として令和3年に絹襴記念館が行った「百年前の桐生(その1)」を取り上げました。

令和3年は2021年。その100年前の1921年、大正10年3月1日、山田郡桐生町は市制を施行し、群馬県内3番目の市となりました。翌大正11年9月に市庁舎が改築竣工(永楽町)。14年4月錦桜橋

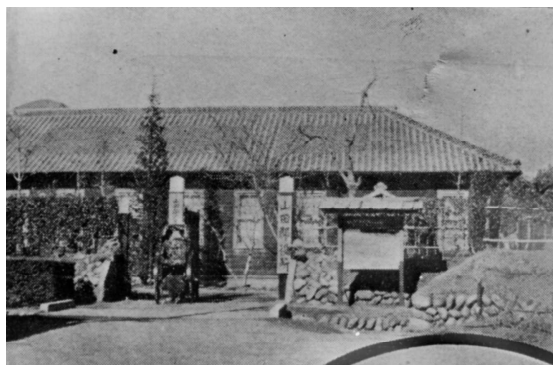
がワーレントラス橋に架け替えられ。昭和3年(1928年)11月3日新川運動場竣工。同10日に西桐生駅を起点とする上毛電鉄が開通します。

その後、昭和7年4月に上水道給水開始。9年2月桐生医療組合病院(桐生厚生病院の前身)設立。10年には小曾根町に桐生図書館が開館するなど、大正末期から昭和初期にかけては、公共施設や社会資本が次々と整備され、市としての体裁を整えていった時期に当たります。

さて。写真を見て、記事を読んで興味の湧いた方は、その場所へお出でになり、もしも現存していれば建物等を、既になくなっていても周りの風景などを見渡し、耳を澄まして、その場の雰囲気などを味わってみてはいかがでしょうか。きっとふるさとの新しい魅力が探せるのではないかと思います。



郡から町 町から市へと 役所も変わっていきます



↑ 山田郡役所 明治11(1878)年 設置

← 桐生町役場 明治34(1901)年 新築

※ いずれも建物の撮影年は不明

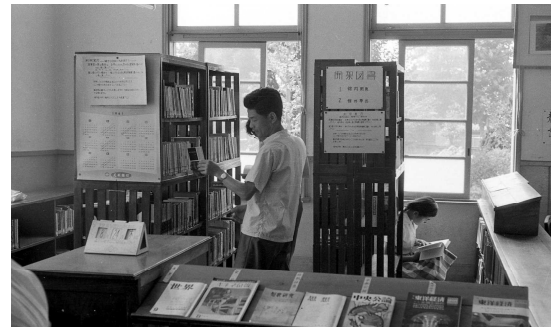


↑ 旧 桐生市役所 大正11.9.19竣工
現西公民館の東隣に建っていました(場所は下の写真を参照)

図書館内の様子 1961年(昭和36)のカレンダーが貼ってあります→



旧 桐生図書館 昭和10.11.3開館
現桐生第一高校北東隅の辺りにありました
看板の書体がいかめしいですね



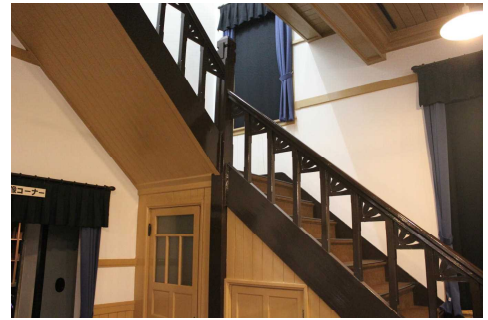
時代は新しくなっていますが 西小学校周辺が桐生の官庁街だった頃の様子です 昭和30年代撮影？



旧 桐生市役所 少し離れた右上にある白い建物は旧税務署

旧 織物会館(現 織物記念館)

旧 桐生警察署



桐生市近代化遺産(市指定文化財)

絹襴記念館 あれこれ

現在の外観と内部の様子 木製階段の手すりに造作が施されています ↑

今回、快くコラボ企画に賛同いただいたことに敬意を表して、絹襴記念館を紹介いたします。

この建物は「旧模範工場桐生襴糸合資会社事務所棟」として大正6年に建てられました。会社ができたのは、明治35年、農商務省の殖産興業施策によって作られた模範工場の一つでした。大正7年、社名が日本絹襴株式会社へ変更され、日本最大級の襴糸工場へと発展します。太平洋戦争末期に軍需工場に転用され、戦後、事務所棟は進駐軍に接收されます。その後、庶民信用組合の店舗として使われた時代を経て、改修工事を終えた平成25年4月から一般公開を行っています。

☆絹襴記念館HPから要約して引用

事務所棟の向こう側には幾つもの工場棟が建てられていることが分かります
 JR桐生駅の南側の広大な敷地(14315坪＝約4.7ha)の中には、従業員教育を行う学校もありました。開校当初は会社創立者の前原悠一郎が教壇に立っていました。 ↓



進駐軍撤収後 使用されていなかった頃でしょうか？ 外壁の化粧の一部が剥がれ落ちています ↓



改修前(撮影年不明) ↑